

# 森のおくりもの5月



シメ♂(アトリ科)



4月25日撮影



3月5日撮影

5月に入り、オオルリやキビタキなどの夏鳥がここ観察の森でもよく見られるようになりましたが、冬鳥であるシメも4月末の時点で頻繁に目にすることが出来ました。

シメの特徴はその太くて頑丈そうな嘴（くちばし）です。冬の個体の嘴は淡いピンク色をしていますが、繁殖期に入ると嘴が鉛色？に変化することでも知られています。四月下旬に撮影した写真と3月上旬のそれと比べてみると、先端の色がやや冬の名残を残してはいるものの、全体的に濃い色に変化しているのが見て取れます。

私たちは様々な事象から季節の移ろいを実感しますが、鳥たちの様子からもそれを感じることができますね。【写真・文 近藤晋也】

# 森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

## 『 栄枯盛衰（えいこせいすい） 』

早春から初夏にかけての時期は開花のリレーが繰り広げられ、花が次々と咲いては移り変わっていきます。森のあちらこちらであんなに目立って咲いていたセリバオウレンやカタクリなどが、いつの間にか見えなくなってしまう様子に、自然のはかなさを感じます。

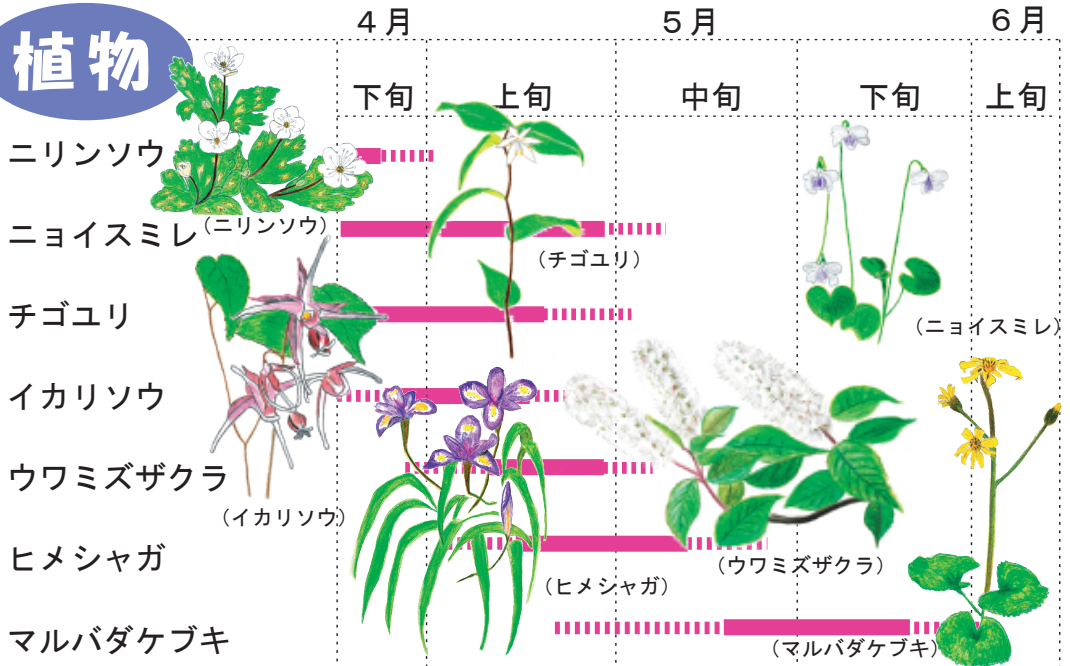
このような草木が芽生えて枯れていく自然の摂理から転じて、人や組織の繁栄と衰退を表した『栄枯盛衰』という言葉があります。「栄えることと衰えることを繰り返していくこと。人の一生や世の中は、繁栄が続けばいつかは勢いが衰える。世の中の儚さと無情さ」をいう言葉です。

栄えたら衰えるという当たり前の流れを冷静に見据えて受け入れる悟りの教えの言葉なので、別段いい意味でも悪い意味でもないのですが、現在の世の中の状況には希望の光に感じます。栄えればいつかは滅びるのは世の習いなので、猛威を振るっている新型コロナウイルスにもきっとこの摂理が当てはまるはず。この先どうなってしまうのか不安ですが、どんなに流行していても必ず終息する日が来ると信じて辛抱したいと思います。【レンジャー：新田隆一】



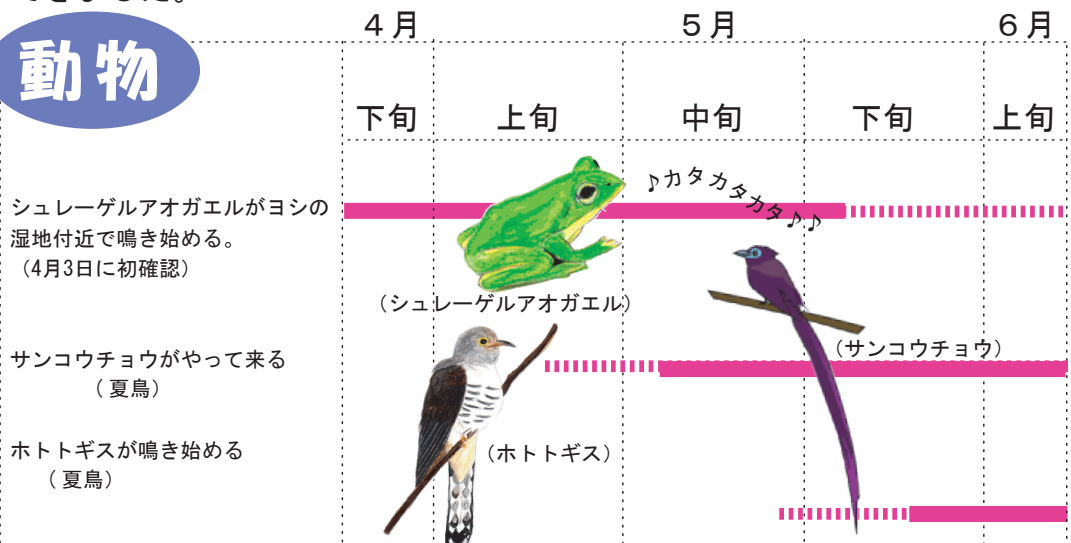
# 5月の生物ごよみ

## 植物



植物の開花スピードも年々増し、今まで5月に咲く花だったチゴユリやラショウモンカズラも4月の後半には咲き始めています。夏鳥たちも少しずつ観察の森にやってきました。確認情報としてはツバメが4月7日、イワツバメが10日、センダイムシクイ、サンショウクイが17日、ヤブサメが18日、オオルリが23日、キビタキ、コサメビタキが24日に確認できました。

## 動物



【レンジャー：齋 正宏】

※夏鳥 春に東南アジアなどの越冬地から日本に渡ってきて繁殖し、秋には帰っていく鳥。  
日本にいる期間は種類によって違うが、おもに3月～10月の間になる。



# 「自宅待機されている皆さんへ」



## その21 「“美しき小さな雑草の花”」



市道のかたわらにしゃがんで、じつとながめて見ると、小さな花でいっぱいでした。青い星をちりばめたような「オオイヌノフグリ」やウサギの耳みたいな「ミドリハコベ」、華麗に舞う「ヒメオドリコソウ」そしてお気に入りの「キュウリグサ」…。ガイドウォークで詳しく紹介したいのですが、実は、これら雑草の花たちは皆さんの家のまわりで見つかるものも多いのです。

「太白山に行きたい。けど我慢している」という方の、その思いにどう応えればいいのか自問自答の毎日です。気晴らしに虫メガネを片手に家の周りの小さな花たちをたずねてみてはいかがでしょう。

思いがけない出会いが、きっとあるはずです。



そんな“足元の観察”に超お薦めの一冊が多田多恵子『美しき小さな雑草の花図鑑』山と溪谷社刊です。多田さんの植物愛あふれる解説と、爪

先程の花の、その拡大写真の緻密さ美しさに圧倒されまくりました。冒頭に観察したセンター前の花もすべて載っていて、いや、ほんと。野の花の大好きな方はひとめぼれ間違いなしですよ。

【レンジャー：木田秀幸】



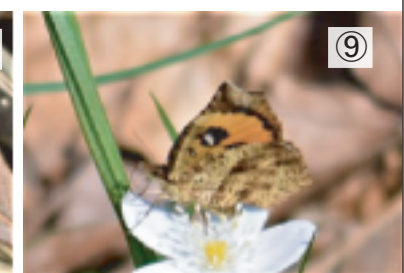
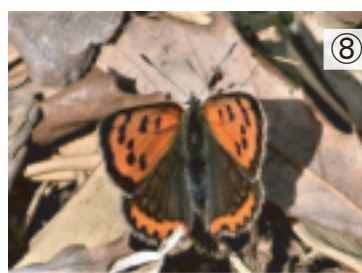
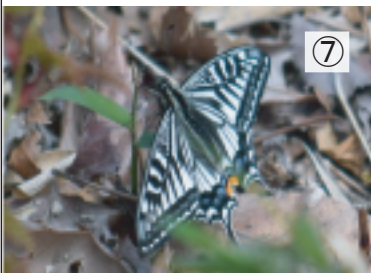
# 森は糸 森は布

森は様々な生き物が互いにつながって  
森として生きているんですね (\*\_\*)

初夏を迎える観察の森は、遠目に見ると森全体が淡い緑や茶色、そして薄い桃色に染まってまさに萌黄色。ガイドウォークやイベントもできないまま時間が過ぎていますが、森の時間はいつものように流れています。樹木などのほとんどが葉を展開させ、花を咲かせている姿も多く見かけます。また、青や紫色など様々な色の草花が観察路を賑わわせ、命が力強く息吹いています。(^^♪



写真の①は、ルリソウです。ムラサキ科の花にはワスレナグサなどがありますがどれも花の作りが似ていますね。森で見つけるとその青色にときめいてしまいます。②は、同じく青色の花を咲かせるフデリンドウです。花束のようですね。③は、イカリソウの花です。名のとおり花が錨（いかり）に似ていますね。④は、ラショウモンカズラの花です。切り落とされた鬼の腕の形に似てるといのですがどうでしょうか。⑤は、ミツバアケビの花です。花序の先端が雄花の集団で、基部にある大きい花が雌花です。花びらに見えるのは実は錨（がく）です。⑥は、アケビの花です。錨が白く、葉の数が5枚です。これは雄花で、中に紫色のおしべが見えます。一方、蝶も飛び回っています。⑦は、ナミアゲハ、⑧は、ベニシジミです。どちらも羽化したてのようで羽が鮮やかですね。⑨はイカリモンガです。羽にあるオレンジ色の部分が錨の紋に見えますか。蝶に見えますが、蛾の仲間ですよ。(^^♪ 【レンジャー：菅原幸彦】



# 新型コロナウイルスの感染拡大防止の措置について

新型コロナウイルス感染拡大防止を目的として、自然観察センターの一部利用制限やイベント等を自粛してまいりましたが、政府の緊急事態宣言を受けて、同様の措置を5月31日（日）まで継続することとなりました。日頃から当施設をご利用いただいている皆様方には大変ご不便をおかけいたしますが、制限が解除または緩和されるまでの間、今しばらくお待ちいただけたらと思います。 **※センター内のトイレの利用は可能です**

5月に入り、新緑が美しいこの時期、本来であれば自然観察や散策するにはまさにベストシーズンです。レンジャー達が企画した様々なイベント、毎週日曜日のガイドウォークなど、この時期に実施出来ないのは本当に残念ではありません。しかしながら、今はじっと我慢することが、早期収束への足がかりとなると考えておりますので、ご理解下さいますようお願い致します。

また、緊急事態宣言後から、ここ自然観察の森はいつも以上の賑わいを見せています。自然や緑豊かな場所に癒しを求める方たちが非常に多いということは管理者としては何よりもうれしいことではありますが、こういった時期ですので、屋外施設であっても、密集、密接を極力つくりたくないよう、ご配慮いただけますようお願い申し上げます。

太白山自然観察の森 自然観察センター  
館長 近藤晋也

毎週  
日曜は

## 『ガイドウォーク』の日！

開催予定：**5月はすべて中止です。**

開催時間：10:00～11:30 13:30～15:00

今月のテーマは「**初夏の森の楽しみ**」

## 5月の休館日

7日（木）、11日（月）、  
18日（月）、25日（月）、

※ゴールデンウィーク期間  
は変則的になります。



### 宮城交通バスの場合

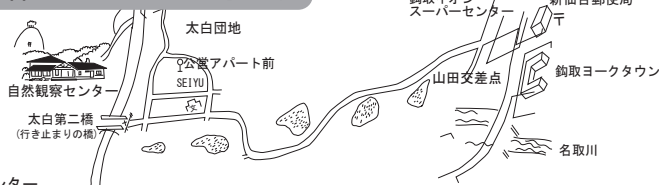
- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
  - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
  - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車  
（※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘經由山台南ニュータウン行」）  
いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分



### お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ、  
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

### ♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、  
「森のおくりもの」バックナンバーは  
Webで！

2020年5月号（毎月1回5日発行）

発行：（公財）仙台市公園緑地協会

編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133